



市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。  
また、みよし市ホームページでは「Topics(まちの話題)」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」  
でイベントや行事の様子を紹介しています。 <http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/>

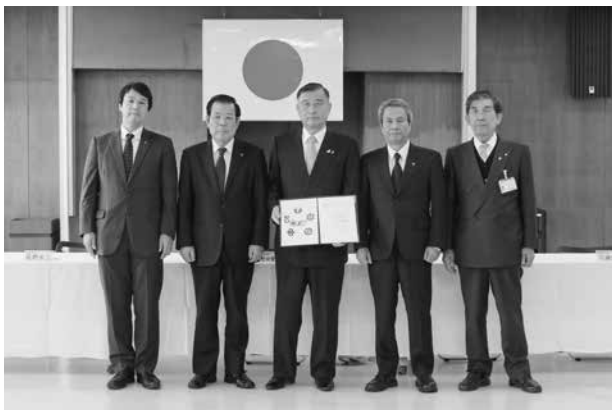


## 火遊びは絶対にしません

### ふれあい防火教室(ベル三好幼稚園)

保育園や幼稚園の園児たちに防火に対する意識を持ってもらおうと、尾三消防本部が市内全保育園・幼稚園で実施しているふれあい防火教室。1月12日には、ベル三好幼稚園で行われ、全園児およそ300人が参加。初めに、大地震が起きたことを想定して避難訓練を実施し、全園児がヘルメットをかぶり、落ち着いて園庭に避難しました。続いて、ホールでは火遊びの危険性や火事起きたときに注意することなどを分かりやすく説明したアニメを上映。見終わった後には、年長園児を対象に上映内容の復習を〇×クイズ形式で行い、花火は大人の人と一緒にすること、火遊びはしないことなどの防火の誓いをみんなで元気いっぱいに唱えました。その後、園児たちは普段はなかなか近くで見ることができない救急車や消防車を見学したり、実際に放水の体験や防火服を着て記念撮影をしたりするなど、目を輝かせて消防署員と楽しく交流しました。





消防体制の整備および確立を図り、尾三消防組合(みよし市、日進市、東郷町)、豊明市、長久手市における消防広域化に関する協議を行うため平成28年4月、尾三消防組合・豊明市・長久手市消防広域化協議会が設置され、128項目について協議を重ねてきました。それぞれの市町の12月議会において、消防広域化を図るための議案が議決され、12月27日には、尾三消防組合の構成団体の増加および規約の変更手続きを行うための協議書への署名が尾三消防本部で行われました。5市町の首長が署名を終えると協議会会長の小野田賢治みよし市長が「各市町の皆さまが精力的に話し合いを重ねてたくさんの問題を解決し、本日に至ったことに心から感謝します。皆さまの協力をいただきながら、消防広域化をさらに充実したものにしていきたいと思えます」とあいさつしました。今後、5市町は4月1日の新組合の発足に向けて準備を進めていきます。

## 消防体制のさらなる充実を

### 消防広域化に係る協議書の取り交わし



災害時に、各地から集まるボランティアと被災者をつなぐために重要な役割を担う「ボランティアコーディネーター」。防災ボランティアコーディネーター養成講座が1月14日、講師に防災安全課主事の根角佳孝さん、みよし市社会福祉協議会課長補佐の村松正憲さん、日本赤十字社防災ボランティアリーダーの松岡博さんと石原貴代さんを迎えて市役所で行われました。災害時におけるみよしの市のボランティアの受け入れ体制や東日本大震災被災地の被災当時の状況、ボランティアの活動の紹介や災害ボランティア活動をする上での注意点などが説明されました。続いて、ボランティアコーディネーターの役割や災害ボランティアセンターの活動についての説明、ボランティア支援本部の立ち上げや運営についての講義が行われると、参加者たちはメモを取りながら真剣な表情で聞いていました。

## 被災者と善意をつなぐ

### 防災ボランティアコーディネーター養成講座







## 昔の遊びに熱中

### 伝承遊びの会(北部小学校)

昔から親しまれている遊びを体験することで、楽しみながら日本の文化に触れてもらおうと1月13日、北部小学校で伝承遊びの会が行われました。今年は1年生がこま回し、2年生がけん玉、3年生がいろはかるた、4年生が百人一首、5年生がたこ揚げ、6年生が竹とんぼにそれぞれ挑戦。1年生のこま回しでは、こまを回す時間を競ったり、こま同士をぶつけ合ったりしていました。2年生のけん玉では、大皿、小皿などの技ごとの合計得点を競い、子どもたちはけん玉の技が成功すると歓声を上げていました。また、5年生のたこ揚げでは、できるだけ高く揚げようとしていたり、友達同士で集まって和気あいあいと揚げたりするなど、思い思いに楽しんでいました。けん玉に挑戦した2年生の女子児童の一人は「練習したけん先の技が、本番ではできなかったけど楽しかったよ」と笑顔で話していました。



## 正しい110番通報を

### 「110番の日」キャンペーン

1月10日の「110番の日」に合わせて1月13日、「110番の日」キャンペーンが市民活動センターで行われました。この日は、外国人と日本人の合わせておよそ40人が参加。初めに、豊田警察署地域課の職員が「昨年受けたおよそ65万件の110番通報のうち、およそ4分の1は緊急性のないものでした。緊急性のない相談ごとなどは「#9110」にかけてください」と呼び掛けました。続いて、110番通報に関する〇×クイズが行われると、参加者は楽しみながら110番通報に関する理解を深めていました。その後、日本語を話すことができない人の通報方法として、通報者と警察官、通訳者が同時に通話できる三者通話システムが紹介されると、参加者は実際にポルトガル語で三者通話による模擬通報を体験していました。





新しい年を迎えたこの時季に消防団員が一堂に会することで、改めて防災に対する意識向上と団員の士気高揚を図ろうと1月7日、南部地区コミュニティ広場でみよし市消防団出初・観閲式が行われました。式に先立ち、三好上分団、明知上分団、打越分団による放水訓練が行われました。式では、各地区の消防団と女性消防団、機能別消防団合わせて15分団の団員が整列し、引き締まった表情で小野田市長と来賓の皆さんの視閲を受けました。続いて、小野田市長が「消防団は、地域防災力の要です。団員の皆さまには、引き続き住民の信頼と負託に応えられるよう、さらなる精進を期待しています」と消防団員を激励しました。その後、長年にわたって消防団活動に尽力された皆さんの表彰が行われ、最後には全員で「火の用心」三唱を行い、今年一年の無火災・無災害を祈願しました。

## 1年の無災害を願って

### みよし市消防団出初・観閲式



生徒たちが点字や手話、車椅子補助などを体験することで、障がいのある人や体が不自由な人に対する接し方の理解を深め、共に生きようとする意欲を高めてもらおうと1月18日、三好中学校で福祉実践教室が開催されました。この日は、点字体験、手話体験、車椅子補助体験、要約筆記、高齢者理解の5つの講座が開催され、1年生およそ170人が参加。生徒たちは、「車椅子を押すのに力が必要だね」、「点字を触っても読むのが難しいね」などと話しながら、それぞれに障がいのある人の生活を体験し、理解を深めていました。参加した女子生徒の一人は「障がいのある人が困っているときに、周囲の人に少しでも理解があれば、多くのことで手助けができることを学びました。これからも障がいについてたくさん学んで、もしものときに手助けができるようになりたいです」と話していました。

## 思いやりの心を育む

### 福祉実践教室(三好中学校)

